

青森一高養 書道部



2校に文化部奨励賞

県教委

県教育委員会が、優れた部活動を行う県内の高校文化部に贈る本年度の「県高校文化部活動奨励賞」に、青森第一高等養護学校書道部と青森高校文学部が選ばれた。6日付で県教委が発表した。両部には、東京青森県人会の高校文化部活動特別奨励賞も授与される。後日、県庁で授与式を行う。

青森第一高等養護学校書道部（部員6人）は、それぞれ障害がありながらも工

青森高 文学部



用者による書道パフォーマンスを実施。今年8月には青森市の三内丸山遺跡で行われた東京パラリンピック聖火の集火式のオープニングセレモニーでパフォーマンスを披露した。

副部長の神龍飛さん（3年）は「素晴らしい賞をいただけてとてもうれしい。（今後も）たくさん書いて、上手な書作品を仕上げたい」と意欲を見せた。

青森高校文学部（部員33人）は、19、20年の県高校総合文化祭の文芸部門「散文・小説部門」で部員が最優秀賞を受賞し、2年連続で全国高校総合文化祭に出場。今年は「詩部門」でも全国出場した。

例年、文化祭に合わせて同部が発行してきた「青高文学」は今年で59号目。部員同士で作品に対する感想を話し合い、約1年かけて制作している。今年開催の第23回全国高校文化連盟北海道東北文芸大会青森大会では、企画や運営を担う。

同部の長内のかさん（2年）は「文芸部はあまり目立つ部活ではないかもしれないが、自分たちの活動に目を向けて賞を与えてくれたことがすごくうれしい」と笑顔を見せた。（高田春菜、長谷川恵子）